

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

事業名 苗木生産経営安定化対策事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 整備係 電話番号：058-272-8490

E-mail：c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,000 千円 (前年度予算額： 1,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,000	0	0	0	0	0	0	0	1,000
要求額	1,000	0	0	0	0	0	0	0	1,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

第4期岐阜県森林づくり基本計画(R4~R8)では、5か年間で3,100haの再造林を計画している。植栽経費などの低コスト化が期待できるコンテナ苗を推奨するために、平成26年度から補助制度を実施している。

主伐・再造林を進めるためにコンテナ苗は不可欠であり、生産者数の維持や生産量の拡大が必要である。そのため、買い手がつかないなど需給調整が上手くいかないことによる残苗の発生に対して支援が必要である。

また、苗木の安定供給を推進するためには、需給調整を行う必要がある。需給のバランスを調整し、優良種苗の生産確保と円滑な取引を推進するため、組織的な取組みを行う種苗需給調整協議会に対し支援する。

(2) 事業内容

(ア) 事業目的・事業効果

①苗木生産者が、低コスト再造林に期待されるコンテナ苗等を生産する場合、買い手がつかないことにより苗を廃棄する必要性が生じた場合の損失を補てんし、苗木生産への取組みを支援する。

②林業用種苗の需給安定を図るため、需給計画の作成と調整を行う団体へ助成。

(イ) 内容

①岐阜県苗木生産経営安定化対策事業：

苗木生産者が生産したコンテナ苗の残苗、補てん本数：約10,000本

②岐阜県林業用種苗需給調整協議会運営費：

岐阜県林業用種苗需給調整協議会の運営にかかる経費の一部を助成

(3) 県負担・補助率の考え方

- ①補助率：苗木価格の50%（一般財源） ※ $182.3\text{円/本} \times 50\% = 91.15\text{円/本}$
- ②補助率：運営経費の1/2

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	912	生産不良等により苗木を廃棄する必要がある場合の損失を補てん
その他	88	協議会運営に要する経費を助成
合計	1,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画の施策の柱「災害に強い循環型の森林づくり」において「苗木生産者に対する苗木の安定供給体制の支援」を実施することとしている。

(2) 国・他県の状況

①国では、コンテナ苗による苗木生産を推進しており、全国で生産量が増加している（H21：9万本、H22：27万本、H23：42万本、H24：76万本、H25：114万本、H26：257万本、H27：470万本、H29：854万本、H30：1168万本、R1：1608万本、R2：1791万本）。

②需給調整については、他県においても同様に実施している。

(3) 後年度の財政負担

継続的に必要

(4) 事業主体及びその妥当性

①事業主体：林業種苗法第10条に基づき知事が登録した苗木生産者

妥当性：林業用種苗の生産者としての資格を有しており妥当である。

②事業主体：岐阜県林業用岐阜県林業用種苗需給調整協議会

妥当性：供給者側と需要者側で構成される「岐阜県林業用種苗需給調整協議会」が事業主体となっている。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	苗木生産経営安定化対策事業費補助金
補助事業者（団体）	① 苗木生産者/②岐阜県林業用種苗需給調整協議会 (理由) ①コンテナ苗生産におけるリスク軽減/②供給者と需要者で構成される唯一の協議会であり、林業種苗法第30条で県の援助が規定
補助事業の概要	(目的) ①低コスト造林に必要なコンテナ苗生産拡大 ②系統の明確な優良種苗の確保とその取引を円滑に推進 (内容) ①苗木生産者がコンテナ苗等を生産した場合、生産不良等により行う廃棄の損失を補てん ②岐阜県林業用種苗需給調整協議会の運営に要する経費への助成
補助率・補助単価等	① 定率 / ②定額 (内容) ①補てん金額:91円/本(苗木単価@182×50%) ②88千円 賃金、旅費、会議室使用料等 (理由) ①新たな技術への取り組みには、リスクが伴うため支援が必要/②県土を保全する優良種苗の確保に資するため県が半額を負担する。
補助効果	① コンテナ苗生産量の増加、苗生産者の育成 ② 生産者は、需要を把握することで安定経営が可能となり、造林者は必要とする苗木を確保できる
終期の設定	終期 令和8年度 (理由) 第4期森林づくり基本計画の終期

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>① 令和8年度までに優良なコンテナ苗180万本県内生産する。</p> <p>② 苗木の県内供給率を令和8年度までに100%にする。</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R8)	
					達成率	達成率
① コンテナ苗生産本数(万本)	0	68	80	108	180	
② 県内供給率の向上	0	57	90	90	90	

補助金交付実績 (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度
	1,185	1,480	1,480

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	・14,800本の残苗が発生し、9,985本の損失補てんを実施した。
	指標① 目標：73万本 実績：59万本 達成率：81 %
令和3年度	・45,990本の残苗が発生し、9,400本の損失補てんを実施した。
	指標① 目標：98万本 実績：68万本 達成率：69 %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>① 主伐・再造林に必要な不可欠なコンテナ苗の安定供給を図るため、支援が必要である。 ② 種苗の需給は、森林整備の施策の推進にも大きく関与するため、事業の必要性は高い</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 2	<p>① 生産者が増加しており効果は高い。 ② 協議会の開催は、供給者側と需要者側が一同に会し、直接相互の意向を確認できる貴重な場であり、事業の有効性は高い。</p>
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価)	<p>① 本事業により、生産者は安心して生産に取り組めるため、生産技術の向上に対する支援ができています。 ② 翌春に出荷が見込まれる苗木量を把握した後に協議会を開催しており、開催時期を年1回として事業の効率化を図っている。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 県では、森林資源の活用を目指し、合板工場や大型製材工場を誘致した。今後、木材の安定供給のために皆伐面積が増加すると、再造林用の苗木が必要となる。このため、苗木需要量を把握し、生産者へ情報提供することで苗木の安定生産を推進する必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 森林資源の循環利用の促進のため、皆伐跡地への植栽が必要であり、苗木の確保は重要な課題である。このため、苗木生産者の生産体制の確保のために本事業を継続していく必要がある。</p>
--